イキ！イキ！現場リポート

つかもと内科

〒814-0161　福岡市早良区飯倉3丁目31-14　TEL 092-832-5901　FAX 092-832-5902
http://tsukamotoclinic.com

丁寧な説明をモットーに「かかりつけ医」街道を邁進中！

専門性を確保しながらプライマリケアにも注力されているつかもと内科。先生の丁寧な説明とやさしい語り口は、家族ぐるみでお世話になりたいと思える、まさに「かかりつけ医」といったイメージにぴったり！実は、それは先生のご経験から培われたものでした―。

クリニック名の上にあるのは開業前に院長と事務長で検討を重ねて決定したというロゴ。お二人のお気に入りだそう。

つかもと内科　概要	
無床診療所（個人立）、2014年12月開業	
診療科	内科、糖尿病内科、腎臓内科（院長の専門は腎臓病）
スタッフ数	医師1名（院長）、看護師1名、受付1名、事務長

塚本院長（右）と塚本事務長

「幅広い患者さんとふれあいたいと思い、開業を決意しました。医局時代は、腎臓病や透析が専門だったんですけどね。」と笑う先生。

専門外来頼られ、遠方からも

つかもと内科の塚本院長のご専門は腎臓病ですが、診療の3本柱として掲げている疾患は、腎臓病、糖尿病、認知症の3つの専門外来。ホームページを見て遠方からセカンドオピニオンを求めてくる患者さんも多いそうです。ホームページは、ご自身で制作をされたそうです。それだけに治療に関して読み応えのあるページが多く更新も頻繁です。遠方からの患者さんが多いのもうなずけます。

診療圏を広げてくれるホームページは、優秀な広報ツールですが、患者さんの期待を想定以上に高めてしまうリスクもあります。患者さんが期待する診療を提供できなければ、逆に評判を落としてしまいます。そこで、同院では、

手作りのホームページ。情報満載です。

まずはしっかりと丁寧に話を聞き、その上で説明することを心がけています。

時間配分、心配り、すべては患者さんのために

説明は、患者さんにわかる言葉を使うのが鉄則。自作の資料も交えた説明もします。ときには30分程かけて説明することもあるそうです。「説明が長くなってしまうのは、患者さんにご自分の状態をわかってもらうためです。適切な治療を行うためには最初こそ肝心だと思っています。」とお話しされます。

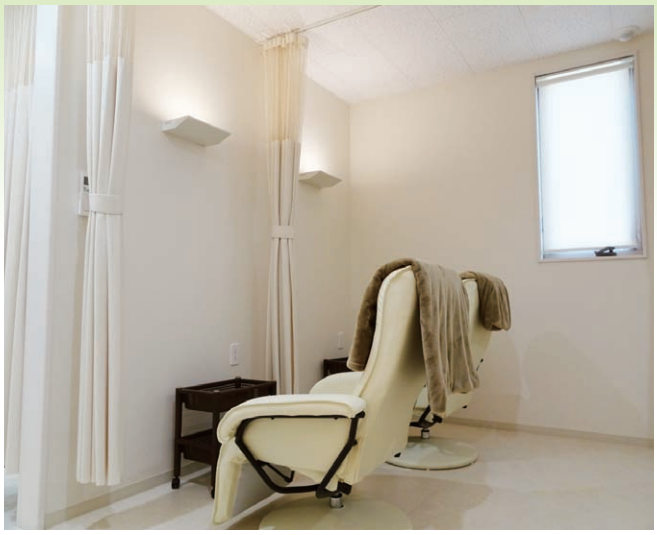
とはいえ、医師1人体制のため、初診患者さんに時間をかけることは、状況によっては難しいこともあります。

そこで、初診患者さんで緊急性が低いと思われる場合は、先に再診患者さんを診察し、初診の患者さんはじっくり診る、そんな工夫もするそうです。そうすれば、既存の患者さんも大切にしつつ新しい患者さんの話もじっくりと聞けます。その際は、必ず「あと3人の患者さんを診たら診ますね」と具体的な状況を知らせ、患者さんへの配慮も忘れないよう心がけています。

パステルカラーで柔らかい雰囲気に統一されている待合室

家族も一緒に入れるように広めにつくられている診察室

これは検尿カップを入れてもらうための場所ですが、
こんな小さなところにも患者さんをほっこりさせる工夫が！



患者さんがリラックスできるように間接照明とした点滴室

記者雑感

初診患者さんへの説明が長くなりがちなことを気にされていた院長ですが、取材で対話した印象は、話上手より聞き上手です。その理由を分析すると、話の合間に適度に挟む適度な相槌が心地よく、また、傾聴の姿勢が素敵だったから。「うん、うん」と頷き、適切なところでアドバイスをくださるので、時間の長さは気になりません。「こんな先生なら、一生お願いしたい！」と思える雰囲気の先生です。

待つのではなく
出かけていくことで見出した活路

今では遠方からも問い合わせがくるほどになりましたが、はじめは大変でした。実は立地に想定外の不利があったのです。

「クリニックの前の道路が工事中で（2年後の現在も一部工事中）、開業直後はご近所でもこの場所にクリニックがあるとは気付いてもらえなかったように思います。」

その状況は想像以上に長引き、事務長である奥様も「私でも車で通り過ぎたことがある」と言われるほど。医院経営と立地状況は、切っても切れない関係。存在が知られにくいということは、当然集患にも影響します。

そんなとき支えになったのは、事務長でした。

「自宅やクリニックで、たくさん話をしました。ちょっと気分が落ち込むと、男性は時間がかかることがありますからね（笑）」

対話の中で辿り着いた結論は、クリニックで待つのではなく、外に出ていくこと。積極的に地域の公民館や会合にも顔を出した結果、ミニ医療講話の開催につながり、そこから患者さんへの紹介となるケースが出てきたそうです。そして一度来院してもらえれば、この院長のお人柄です。リピート率は相当高く、家族ぐるみで来院する患者さんも増えてきました。

とにかく「ご近所は大事」と話すお2人。今後は、この地域と共に成長していきたいと話します。

（松浦　由紀）